

ルとの板彫に最後まで續いたのみであるが、其の代りに、眞の鬼面で、終始殆んど怖しい、而も時には卑猥な、新しい諸魔神の雜然たる群像のある佛殿の門を見るのであつて、直接其の後が、現時の喇嘛教美術に、猶ほ引續き榮えてゐる。

全體として、印度佛教圖像の形式に、恰も四期を劃する事が出来るので、名稱を以て區分すれば、古代式、犍陀羅式、大乘教式、タントラ式の四となる。然るに、此の中、初めの二期の間には、最も著しい區劃があるにしても、後の三者は、順次に發達の次第を逐うてゐる。西北でのギリシア化の影響が佛教美術に及んで、急遽な變化を來し、之が一度認められてからは、佛教美術は、復順當な道を進んでゐるのである。要するに、この長い發達の曲線は、始め續いてゐたのが、次いで急に切斷せられ、再び常態になつて、最後まで長く辿ることが出来る。實にこの發達は千五百年の久しきに亙つて居り、今日に於ても、猶印度以外に續いてゐるのである。